

2番作野幸憲議員、登壇願います。

作野議員の質問時間は11時39分までです。

〔2番 作野幸憲君 登壇〕

2番（作野幸憲君） 皆さん、おはようございます。

議席番号2番作野幸憲でございます。議長に許可をいただきましたので、12月定例会に引き続き一般質問をさせていただきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

さて、今回私が質問させていただく項目は、市と学校と地域の連携についてと、市とその他の連携についてでございます。なぜ今回私がこのような質問をさせていただくかと申しますと、私は昨年10月の市議選において地域未来は人づくりを信条に掲げ、選挙戦を戦わせてもらいました。私は将来の安来を考えたときに、子供を初め将来を担ってくれる人材の育成、そして今まで安来を支えていただいた先輩各位への感謝と、これから先、健康で生き生きと楽しく過ごしていただく環境をもっともっと整えていくことが必要だと考えているからでございます。

近藤市長は施政方針演説の中で、来年度はハードからソフトへ人づくりを理念とし、教育文化、健康の福祉の充実を中心課題に位置づけ、人に優しい施策を推進してまいります、そのため住民や各種団体との協働や行政内部の連携強化を図りながら市政運営に向き合い、市民の皆さんに信頼される活気のある安来を目指してまいりますと発言しておられますように、それを実行していくためには私は市と地域、そして学校やボランティア団体などが一体となって知恵を出し合いながら、お互いに協力し合うことが不可欠だと思うからでございます。

また、もう一つの視点としましては、縦割り行政の弊害がさまざまな場面で大きな障害になっているからでございます。縦割り行政をなくすことはできませんが、これを少しでも減らしていかなければこれからの自治体は生き残っていけないと私は思っております。なぜならば、お金があった時代は部署部署で市民の要望にこたえることができたが、お金がない現在はお互いの部署が協力し合って事業を進めていかなければ、無駄も多く出るし、市民の要望にこたえることもできないからでございます。将来の安来市の財政を考えたときも、今すぐにでも縦割り行政の弊害を減らしていかなければ、手おくれになってしまうと考えます。そこで、私は今回、地域未来は人づくりと縦割り行政の弊害を念頭にみずからの経験や体験をもとに提案型の質問もさせていただきたいと思っております。

最初に、私は将来の安来を考えると、教育の充実は絶対必要だと思っております。近藤市長さんは安来市の教育をどのようにしたいと考えておられますでしょうか。このことは将来の安来の方向性に大きくかかわってまいりますので、お答えいただきたいと思っております。

それでは、これから市と学校と地域の連携について具体的に質問をさせていただきたいと思っております。御存じの方もあると思いますが、私は議員になる前から教育委員会の非常勤講師として、あるいは社会教育委員などとして学校や地域と多くのかかわり合いを持ってきました。現在、国も県も学校と地域と家庭の連携を推し進める方向性を出しております。このような連携を推し進めていく中で、安来市では学校教育を担当している教育委員会と、交流センターや社会教育委員、生涯スポーツ、そしてNPO法人などの社会教育を担当し

ている市民生活部、これは課でいいますと地域振興課と市民参画課になりますが、これが分かれております。このことが連携の大きな障害になっているように私は思っております。

例えばうまくいっていない連携の一つに、今年度から県より社会教育主事、いわゆる地域教育コーディネーターさんが派遣され、安来市に来ていただいております。社会教育に携わっていた者にとっては、この人事は待ちに待った人事でございました。本来の業務は学校、家庭、地域が連携協力した社会教育及び学社連携融合の推進、地域の人、物、事を生かしたふるさと教育の推進、市町村合併後の地域の自立に向けた人づくり、地域づくりの推進のほうでございます。この中には、子供たちを支える地域の大人の組織づくりや、指導者の育成、要請、また地域の社会教育関係者、PTA、NPO等のネットワークづくりなど、さまざまな職務も入っております。しかしながら、1年近くが経過した今でも、我々が期待した仕事をしてもらえていないのが現状でございます。これは社会教育主事さんが教育委員会に席を置かれていることによって生じた弊害であると思います。多くの市や町は、教育委員会の中に社会教育担当の生涯学習課があり、学校教育と社会教育が一緒になっているため、うまくいっていると思います。そのほかにもさまざまな部分で市民生活部と教育委員会の連携がうまくいっていないようにも思えます。

お尋ねいたします。このような現状を打開するための方策などはお考えでしょうか、お答えください。

また、これから学校と地域、家庭の連携に欠かせない存在が社会教育委員だと私は思っております。役割など余り御存じでない方も多いと思いますが、安来市には現在22名の委員の方がおられ、多くは地域代表の方で、そのほかにも学校、PTA代表などで構成されております。見識があり、また経験が豊富で、やる気のある方々の非常にすばらしい組織でございます。一昨年、社会教育関連3法が変わり、社会教育委員の職務にも学校、家庭、地域の相互連携と協力が加わり、交流センターと連携しながら地域の活動に生かしていくという方向性が出ております。しかしながら、社会教育委員は教育委員会に席がないことから、さまざまな場面で行き詰まることも非常に多かったと思っております。市は社会教育委員に何を期待しておられるのでしょうか、お答えいただきたいと思っております。

次に、学校について質問をいたします。

地域のコミュニティーの代表は交流センターと学校でございます。地域のコミュニティーである学校、特に校舎内を地域の方にもっともっと活用してもらい、地域との連携を深めていくことも私は必要になってくると思います。現在、学校側は地域の人に積極的に学校に来てくださいとって呼びかけておられます。しかしながら、魅力ある学校でなければそう簡単に地域の方は学校には来てくれません。現在は防犯セキュリティー、これは職員室の中に防犯設備の機械の操作パネルがあってということが問題のようではありますが、そのほかにも不審者対策などの問題でなかなかできていないのが現実でございます。私も承知はしておりますが、思い切って学校を開放するようなお考えはないのでしょうか、お答えください。

例えば情報化社会の中でインターネットに興味を持っておられる高齢者の方がたくさんおられます。インターネットが完備されていて、パソコンがあるのは地域では学校だけでございます。地域イントラネットの導入の際に安来市内の小・中学校に設置されたパソコン

ンは640台ありますが、地域の人にはほとんど使われておりません。いや使うことができない状態でございます。このパソコンなどを使って学校と地域の連携なども図っていけると私は思いますが、いかがでしょうか、お答えください。

また、学校によっては子供のパソコンの使用頻度が物すごく違うように思われます。現代の子供は好む好まざるを別にしてパソコンを使っていかなければ就職さえままならないのが現実でございます。教育委員会はパソコン教育をどのように指導されているのでしょうか。個々の学校に任せておられるのでしょうか、お答えください。

また、インターネットにかかわる安全・安心講習の実施や、子供をインターネット犯罪から守る対策などはどうなっていますでしょうか、お答えください。

次に、学校現場で最近よく聞く話を質問させていただきたいと思います。

これは遊具の問題でございます。現在、教育委員会はお金がないということで学校の校庭の遊具について危険なものは解体し、その後の手当ては考えていないということのようですが、私は小さいころから遊具に順番に並ぶとか、小さい子に譲るとかといった道徳的な観点や外で遊ぶ習慣の確立や、体力づくりからの観点からも最低限の遊具は絶対に必要だと思いますが、どのようなお考えでしょうか、お答えください。

ちなみに公園の遊具は一通り整備が終わったと聞いております。これも本来であれば、教育委員会と連携を密にしてどこのどの遊具が大事で優先順位をつけて整備するかなどをお互いに検討して対応していただくべきものだと私は思っております。

次に、学校図書館と市立図書館のネットワーク化について質問をいたします。

新年度も引き続き小・中学校に図書館司書を配置されるということで、非常によいことだと思っております。実際に学校で話を聞きますと、読書量は確実に伸びており、そのことによってかどうかはわかりませんが、学習についていけない子供の数が少なくなっているということも聞いております。しかし、学校図書館の悩みは子供が要望するジャンルの本が少ないこと、そして市立図書館の本を借りるときに、電話やメールで問い合わせしないとどんな本が貸してもらえないかわからないことのようにございます。また、図書館側の対応にも問題があるというようなことも聞いております。以前、私が社会教育委員のときに担当課にお尋ねをしましたところ、学校から市立図書館の本が検索できるようにすることについて前向きな御返答をいただいておりますが、その後いかがでしょうか。お答えください。

難しければいろいろな方策はあると思います。安来市のホームページの契約も近く切れるような話も聞いております。そのときにあわせて一緒に検討をしてみたいことはできないでしょうか。そうすれば効率的に、そして市民も検索できるようになり、一層市立図書館の利用もふえ、子供だけでなく市民の読書活動もふえると私は思います。

次に、NPO法人を初めとするボランティア団体との連携について質問をいたします。

安来市にはNPO法人などのボランティア団体がたくさんあります。ボランティア団体ネットワークという組織もありますが、うまく活用されていないように思われます。昨日の代表質問でも連携していくということでございましたが、市として本当に連携を深めていくお考えはありますでしょうか。限界集落の草刈りや教育関係の講師、その他いろいろな場面で活躍していただけたらと思います。いかがでしょうか。お答えください。

なぜここで私がこのようなことを聞くかと申しますと、私は学校や市のいろいろな場所や場面でボランティア団体の存在や活動内容などを話すようにしているのですが、存在自体も余り知られない方も多いからでございます。ボランティア団体の人は何かをして皆さんの役に立ちたいと思っておられる人たちが多いと思います。しかしながら、現在NPOを初めとするボランティア団体もお金があるところとないところの格差が結構あり、活動をしたくてもできない団体もたくさんございます。先日もある部署で限界集落の草刈りをする人がいないんですよというような声を聞きました。こういう場面でもボランティア団体に声をかけてもらえば、積極的に協力してくれる団体は結構あると私は思います。ボランティア団体としても少しでも活動費を捻出することができれば、お互いプラスになると私は思います。

次に、安来市が誇れる取り組みや仕組みの活用について質問させていただきます。

安来市には社日小学校の鳥取方式を採用した芝生の取り組みや、島田交流センターの島田小学校との連携マニュアルの仕組みなど、国内や県内から注目され、そして誇れる地域と学校の連携モデルがあります。しかしながら、市としてこういう取り組みや仕組みを上手に活用しておられません。社日小学校には全国からここ数年で800名を超える視察の人が訪れておられます。今まで市はこの芝生化について積極的に対応してこられたとは私には思えません。私は学校はもとより公園や河川敷の芝生化なども、この鳥取方式を採用し、超低コストで芝生化を進めることは環境にもよいし、地域を巻き込んだ活性化にもつながると思います。なぜなら、芝生の育成から管理までの大半を、子供や保護者、地域の大人を巻き込んで実施することが可能だからでございます。そして、安全で安心してスポーツできる環境が整うことによって、長い目でみると将来の医療費削減にも大きくつながるものだと思います。学校と交流センターなどの地域の連携方法は、島田交流センターで作成しておられる連携マニュアルを使い、安来芝生化連携モデル事業として全国に向けて情報を発信していくこともでき、安来市をもっともっと売り込んでいくこともできると思います。

手前みそではございますが、当然誇れる取り組みの中には、能義平野で取り組んでいる大型ほ場整備や、ファーム宇賀荘さんや、沢宮農組合もあると私は思っております。そこで、お尋ねします。市として先ほど具体的にお話ししたような取り組みや仕組みを積極的に活用していく方針はないのでしょうか、お答えください。

また、現在健康ブームで早朝や夜間でも多くの方がウォーキングやランニングを楽しんでおられます。しかしながら、暗い夜道を反射たすきなどをつけずに歩いておられる方も多く見かけます。お金をかけず、安心してウォーキングやランニングのできる歩道などをちょっとした工夫を施すことによってつくることも可能だと思います。例えば整備されている歩道や運動公園などの外周道路などに100メートル間隔で名刺大のプレートを表示し、あるいは歩道に直接ペイントし、歩行距離がはかれる歩道をつくってみてはいかがでしょうか。その上、できれば1キロ間隔のところや起点になるポイントに、1キロを15分で歩けば何キロカロリー消費とか、1キロを5分で走ればおにぎり何個分の消費カロリーになるとか、そのようなパネルを設置し、楽しく長続きするような施策ももっともっと考えていくべきだと私は思います。これも安来市内の小学校単位の各地区に1カ所ずつでも設置

していただき、利用者をふやしていけば、将来の医療費削減にもこれも大きくつなげるものだとは思います。

しかしながら、このことも縦割り行政の弊害を減らしていかなければ、先ほど石倉議員さんの質問の中にもありましたが、うまくいかないと思います。昨日定額給付金を例に説明がありましたが、私は職員の皆さんからは与えられた仕事ではなく、積極的に施策を考えて提示していただきたいと思っております。職員の皆さんの知恵と意識改革があれば、お金をかけなくてもできる施策はたくさんあると思いますが、いかがでしょうか。お答えください。

今までいろいろとお話しさせていただいたように、安来市は人の活用や対外的に誇れる仕組みを持っていながらも、活用することが下手のように私には映ります。その理由は各部署の情報化の情報の共有化と相互連携がおくれているからだと思います。まず、市長さんが先頭になってリーダーシップを発揮し、縦割り行政の弊害を減らす努力をいち早くされ、縦割り行政に横ぐしを刺すことを考えていただきたいと思います。樋野議員さんが提案しておられるファシリティーマネジメントが一番有効だとは考えております。

次に、市とその他の連携についての質問に移りたいと思います。

12月定例会でも質問させていただいた自治体クラウドの導入についてでございます。

12月以降もいろいろと勉強させてもらい、クラウドコンピューティングを導入、実行するためには県単位、あるいはそれに匹敵するエリアが必要になってくると考えられます。昨日、嘉本青雲クラブ会長の質問に答弁をいただきましたが、私は市長さんが先頭に立って島根県に働きかけていく、あるいは中海市長会で提案していただければ、このエリアで実行してみることもできるかと思いますが、いかがお考えでしょうか。

私の中では、できるのであれば県や松江市が積極的に取り組んでおられる Ruby を使って自治体クラウドのアプリケーションをつくっていただき、全国自治体へ売り込んでいくようなこともできるのではないかと考えております。ちょうどけさの新聞に県が Ruby を使って行政や企業などの業務管理システム開発を民間に委託する政策が載っております。市長さんの積極的な提案をお願いしたいと思っております。

最後になりましたが、先月20日から23日まで韓国密陽市に国際交流のため、樋野議員、丸山議員ともども派遣いただき、ありがとうございました。大変充実した国際交流並びに視察をさせていただきました。この場をおかりいたしまして、3人を代表して御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

さて、そのとき、密陽市の行政担当者より言われたことは、現在安来市から職員派遣が途切れていて、このままだと密陽市側からの派遣も難しくなるということですが、来年度20周年の節目になりますが、この件に対して市長さんはどのようなお考えでしょうか、お聞かせください。

非常に多岐にわたり質問させていただきました。答弁も多くの部署にお世話になるかと思いますが、よろしく願いいたします。

以上で私の壇上よりの質問とさせていただきます。

議長（梅林 守君） 近藤市長。

〔市長 近藤宏樹君 登壇〕

市長（近藤宏樹君） 作野議員さんの一般質問にお答えいたします。

私のほうからは、市長は安来市の教育をどのようにしたいと考えておるか、また自治体クラウドの広域での実行はどのように考えておるか、また密陽市への職員派遣ということでございます。その質問に対して答弁させていただきます。そのほかは担当に答えさせます。

まず、市長は安来市の教育をどのようにしたいと考えておるかということでございますが、教育は国の基であると言われております。今、世界各国は教育に大変な力を注いでおるのは御存じのとおりだと思います。ヨーロッパのフィンランドは農業国が一転して先進工業国になったのはやはり教育と言われておまして、今世界がフィンランドの教育に目が向いているということは御存じのとおりだと思います。やはり教育というのは、科学技術を向上させて、そして産業の発展、ひいては国の経済力を高めるからでございます。また、それと同時に社会の一員として協調性を培い、その中で生きている力、また人間としての情操を育てるのが教育であると思っております。

私たちが健やかな成長をするために子供たちが健やかな成長をするためには、家庭、学校、地域、それぞれがそれぞれの機能、責任を十分果たすことが重要であると考えております。また、一人一人の子供の可能性を伸ばして社会の一員として自立していくためには、豊かな人間性や社会性をはぐくむことが不可欠であります。その基盤となります感性や道徳心、自己肯定感、自尊感情などを育てていく必要がございます。とりわけ今日は御存じのようにものあふれる大変な物質文明の中でございまして、その中でやはり感謝する心とか、あるいは思いやる心、いとおしむ、慈しむ心、こういう情操も育てていかなければならない、私はそういうふうに思っております。それには、やはり先ほども言いましたように、家庭、学校、地域社会あるいは一般社会、共通の認識のもとに連携を深めていかなければならない、こういうふうに思っております。そして、それには知、徳、体のバランスのとれた人間性豊かな人づくりをしていきたい、こういうふうに思っております。

自治体クラウドについてでございますが、代表質問でもお答えいたしましたように自治体クラウドに関しましてはまだ始まったばかりでございます。将来に向けてぜひとも前向きに検討すべき課題であると認識しておりますが、現実には幾つかのハードルもあると感じております。現在のところ、国、県におきましては新しい試みとして検討を重ねている段階であります。今後、県レベルや広域など複数の自治体間での研究、検討が必要になると考えております。中海市長会等でもいろいろ前向きに提案していきたいと、こういうふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

そして、密陽市への職員派遣でございますが、密陽市側からは市職員派遣交流に前向きであり、何とかこたえたいと思っております。残念ながら本年度も年度当初から派遣できていない状況でございます。相互理解の上で姉妹都市交流が行われている中で大変心苦しく思っているところでございます。今後も職員派遣交流を続けていくという前提に立って、職員が参加しやすいように派遣期間を半年に短縮するなど、また事前の語学研修や体験派遣などに取り組める機会を設けるなど派遣をサポートする体制を整えていきたいと考えております。特に若手職員の奮起を期待するものでございます。

もう一つ、縦割り行政どう取り組むかという質問がございました。

やはり行政は、これは一般論でございますが、セクショナリズムに陥りやすいということでは言われております。ぜひともそれは解消していかなければいけない、我々もいろいろな庁議、あるいはプロジェクトチームでそういうことを今連携をとりながら、その解消に努めているところでございますので、御理解をいただきたいと思っております。

以上でございます。

議長（梅林 守君） 伊達山教育長。

〔教育長 伊達山興嗣君 登壇〕

教育長（伊達山興嗣君） 失礼いたします。作野議員の御質問に答弁させていただきます。

初めに、学校を積極的に開放することについてでございます。

先ほど市長が答弁いたしましたように、教育は今や学校だけのものではございません。議員御承知のように教育は、学校は言うまでもなく家庭、地域が強く深く連携しなければ成り立たないものと思っております。学校と地域の連携を深めることは、今申し上げましたように非常に重要であると考えております。校舎を開放するに当たりましては、防犯・防火対策だけでなく、個人情報にもかかわるセキュリティー上の問題があり、現在体育館等の一部を開放にとどまっているのが現状でございます。したがって、すぐに小・中学校すべてが全体的に開放を進めていくことは非常に難しいと考えております。しかし、特別教室棟、一部の開放につきましては、それぞれの学校と地域の皆さんが話し合われる中で可能な方法が見つかれば、私は積極的に進めてもらいたいと考えております。

続きまして、パソコンの活用についてお答えいたします。

パソコン教育、このことは基本的にはパソコンを使用した教育ということかと思っておりますが、児童・生徒が課題解決的学習をみずからの力で主体的に進めていくための一つの方法であると考えております。パソコンの活用や、本年度導入いたしました電子黒板の活用を含めて各学校とも情報リテラシーにして広くとらえて指導してまいりたいと考えております。使用頻度の差につきましては、何をを使って課題解決を図るかは、その内容や環境、教師の意図等によって変わってまいりますので、学校間でパソコンの使用頻度が異なることもあるかと思っております。課題解決的な学習自体が不十分なためにパソコンが活用されないとなりますと問題がありますが、今後とも学校の実態を見て指導してまいりたいと考えております。

次に、インターネットの犯罪対策についてお答えいたします。

インターネット犯罪等の防止につきましては、中学校では技術家庭科の時間に位置づけられておりますので、その時間を中心に、あるいは学級活動でも指導を行っております。小学校では各教科指導の中でコンピューターを活用する際、あるいは学級活動で指導が行われております。その際、県教育委員会や文部科学省が対応マニュアルやリーフレット等も出ておりますので、使用をさせております。また、家庭でのパソコンや携帯電話の使用について、市内全小・中学校へのアンケート調査を行い、実態把握も行っておりまして、それをもとにした保護者への研修も行っております。なお、教職員に対しましては、学警連や県教委主催の研修、各学校での校内研修を行っております。今後は、こういった犯罪がより巧妙化していくものと考えられます。情報政策室とも連携を図り、できるだけ早く

情報を得ながら、学校に指導してまいりたいと考えております。

次に、学校の遊具についてお答えいたします。

教育委員会では、平成20年度から22年度にかけて文部科学省の学校施設における事故防止の基本的な考え方に基づいて、幼稚園、学校の遊具の点検を行い、点検の結果、修理を要するものにつきましては修理、危険で使用不適格な遊具については撤去するように対応してまいりました。すべての施設の点検が終了した後、必要な遊具については整備してまいりたいと考えております。

次に、学校と図書館のネットワーク化についてお答えいたします。

作野議員がおっしゃるとおり、ネットワークのシステムが異なるためにコンピューターを使つての検索はできない状況でございます。しかし、学校に限らず各家庭もコンピューターによる検索が可能となるような環境が理想であると思っております。今後、システムの更新時期に向け検討していきたいと、このように考えております。

以上でございます。

議長（梅林 守君） 仁田市民生活部長。

〔市民生活部長 仁田隆敏君 登壇〕

市民生活部長（仁田隆敏君） 失礼いたします。私のほうからは、派遣社会教育主事に関する御質問など5つの項目についてお答えさせていただきます。

まず、市民生活部と教育委員会の連携、特に派遣社会教育主事についてでございます。

昨年の4月に鳥根県から教育委員会に派遣いただきました社会教育主事は、現在社会教育関係者や関係機関との連携をとりながら、ふるさと教育推進事業などの分野を担当しておりますけれども、新年度からは学社連携、融合推進のコーディネートに関する分野にも取り組む方向で、地域振興課と具体的な調整を行っているところでございます。今後は担当職員間で連絡調整など十分な意思疎通を行い、より連携を進めてまいりたいと考えております。

次に、社会教育委員に関する御質問でございます。

本来、教育委員会の諮問機関としての要素が大きい役職でございますけれども、安来市の場合に限らず全国的に形骸化が進んでいる状況だと聞いております。そうした状況を踏まえまして、社会教育委員の方々には、昨年、一昨年と、安来市の社会教育委員の活動のあり方について協議をいただき、社会教育法で規定する職務以外にも家庭教育への支援、学校、家庭、地域の相互連携と協力が必要になることを踏まえ、独自の活動をしていくという方向性を出していただいたところでございます。市といたしましては、そうした御意向を尊重しまして、社会教育委員の方々には特に専門的な知識や経験を生かしながら地域における交流センター活動の力になっていただきたいと考えているところでございます。

次に、ボランティア団体との連携についてのお尋ねでございます。

安来ボランティア団体ネットワークには、現在31の団体が登録されておりまして、それぞれの組織、団体は活発に活動を行っておられます。個々のボランティア組織と活動内容に関係いたします市の担当課とは、ある程度情報も共有できておりまして活動をとまやっておりますけれども、その活動内容に接点がない担当課につきましては連携が十分図られていない状況であるというふうと考えております。現在求められております行政ニーズ

は多岐にわたっておりまして、サービスの水準を維持するためには、ボランティア団体を初め市民との協働を進めていく必要がありますけども、この問題は避けて通れない課題でもございます。特にこのことは地域活性化の分野で求められておりまして、市として力を入れております交流センターを核にしました地域力の造成にボランティア団体との協働は欠かせないというふうに思っております。

次に、校庭の芝生化などの取り組みについての御質問でございます。

例として挙げていただきました校庭の芝生化への取り組みはもとよりでございますけども、それ以外にも各地区における優良事例は他地区のレベルアップを進める上で参考になるものと考えておりまして、積極的に他の交流センターや学校に事例を紹介しているところでございます。1つの例として芝生化連携モデル、これを全国発信し、安来をPRしてはどうかという御提案についてでございますけれども、社日の芝生化事業のように地域の団体が積極的に活用され、成果を上げられている事例に対しましては、団体の自主性や主体性を尊重したいというふうに思っておりますので、行政といたしましては市のホームページに掲載するなど、側面的な支援を強化するという事で、結果的に安来のPRにもつなげてまいりたいというふうに考えております。

最後に、健康の観点から生涯スポーツの推進はどうかということでございます。

御質問にありましたように、健康の観点から生涯スポーツの推進ということは重要であるというふうな認識は持っております。議員が御提案されました歩道に距離などの表示板を設置する方法でございますけども、安来市でも過去に伯太川左岸の自転車、歩行者専用道路で取り組んだ実績もございます。市民の健康増進に非常に有効であるというふうに思っております。たまたまこの例ではスポーツ振興、健康推進、道路管理の各部署が関係するわけでございますけども、今後地域振興課が中心となりまして関係部署による具体的なアイデアの検討を進めてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

議長（梅林 守君） 2番作野議員。

2番（作野幸憲君） 時間が参りましたが、今回私が質問させていただいた連携ということでございますが、私は市内の連携がなくして地域の人やかかわってくださる方々の気持ちは動かないと思っております。ですので、市長さんも施政方針でも述べられたように連携を密にさせていただいて、行政内部でスムーズに事が運ぶように、そういう安来市、安来市役所にしていただきたいと思っております。

以上をもって私の質問とさせていただきます。ありがとうございました。

議長（梅林 守君） 以上で2番作野幸憲議員の質問を終わります。